第44回　「少年の主張富山県大会」発表者

うえはら　さやか **上原　沙弥夏**	入善町立入善中学校　　1年 **今を生きるということ**	発表順	
概要	父の病気が分かったとき、私は「死」を身近に感じ、戸惑う自分を受け入れられませんでした。しかし、父の懸命に生きる姿を目の当たりにし、「今」を生きることを考えさせられました。「私」が置かれた場所は変えることはできないけれど、置かれた場所でどう輝くか、どう生きるかは私が決めること。これから先、私は「今」を大切に、悔いのないように生きていきます。		
かわはら　ゆうか **河原　優香**	富山市立堀川中学校　　2年 **私が私でいられる理由**	発表順	
概要	幼い頃に「くる病」で、歩くこともままならなかった私。今はこんなに元気になって毎日を楽しく過ごしています。私が私らしくのびのびと成長することができたのは、私を育ててくれた家族や、周囲の方々のおかげです。私を支えてくださった皆さんに感謝して、私の思いを伝えます。		
きょう　ゆうき **京　　優希**	富山市立八尾中学校　　1年 **校歌に学ぶ**	発表順	
概要	今年度統合し、新しくなった八尾中学校に入学しました。新しい校歌の歌詞には、自分の思いに通じるものがありました。一番の歌詞からは、国際的な支援団体の教師になり、学びを届けたいという夢を、二番の歌詞からは、思いやりの心をもって行動することの大切さを、三番の歌詞からは、将来、つらい時にこの校歌を思い出して強く歩んでいき、夢を叶えたいということを主張します。そして、世界平和を心から願いたいです。		
たかた　とあ **高田　翔葵**	射水市立小杉中学校　　3年 **富山の祭りを次世代へ**	発表順	
概要	私は幼い頃から富山の祭りが大好きです。祭りには人の心を動かしたり、地域のコミュニティを活発にしたりする力があります。しかし、近年の少子高齢化に伴い、継承することがとても難しくなってきています。また、コロナ禍により祭りが中止になってしまい、もどかしい思いをもちました。人と人を繋ぐことができる祭りを、次世代へと継承していくために、自分に出来ることを見付けていきたいと思います。		
とくなが　きくよ **徳永　貴久代**	射水市立小杉中学校　　3年 **十一年前の記憶**	発表順	
概要	みなさんの一番古い記憶は何ですか。私の一番古い記憶は十一年前の震災です。私は、自分の経験から震災について考えることで、少しだけ被災者の思いを想像することができました。十一年経った今も、被災した人たちの心の傷は残っています。中学生である私たちが日常から震災について考え、十一年前の震災が心の傷だけで終わらないように多くの人に伝えていくことが大切だと思います。		

かたおか　ちづる **片岡　千鶴**	高岡市立高陵中学校　3年 **私の夢**	発表順	
概要	小学5年生のときに「ものづくり・デザイン科」の授業で、ウォールフックを製作したことがきっかけで、伝統工芸のとりこになりました。私が作った工芸作品で、誰かに小さな幸せをプレゼントしたい、伝統工芸のよさを再発見してもらいたいという夢をもっています。夢に向かって勇往邁進していきたいと思います。		
くろうじ **黒氏　みなみ**	高岡市立牧野中学校　3年 **個性を認め合える社会に**	発表順	
概要	日本では、周りと同じであることが大切とされ、同じことで人間関係をスムーズに保とうとする風潮が強いと感じます。私は、他人に対して、「普通」とか「普通でない」とかで判断し、決めつけるのではなく、違いを個性として認め合い、みんなが安心できる社会であってほしいと思います。私のコロナ禍での体験を通じ、そのことを伝えたいと思います。		
なかざわ　さり **中澤　彩理**	高岡市立牧野中学校　3年 **曽祖父から教わったこと**	発表順	
概要	百一歳で亡くなった曽祖父は、どんな時にも優しく穏やかで、頼りになる大きな存在でした。そんな曽祖父は、二十歳の頃にシベリア抑留を経験し、想像もつかない過酷でつらい時代を生き抜いてきました。だから、曽祖父は誰に対しても「ありがとう」の気持ちを忘れずに生きていたのだと思います。曽祖父が教えてくれた、感謝の気持ちを忘れずに、「今」という時間を大切にして日常生活を送りたいと思います。		
ののがき　ひより **野々垣　陽和**	高岡市立牧野中学校　3年 **蝶は自分じゃなくていい**	発表順	
概要	「人前に立つことが苦手。大きな声を出せない。私にできることは何だろう？」長い間もっていたコンプレックスでした。しかし、小学校の全校合唱の伴奏、中学校の吹奏楽部の活動を通じ、「音楽」を通して「人を支える」楽しさ・素晴らしさを味わうことができました。その結果、自分の在り方に気付き、上司を支える「秘書になりたい。」と考えるようになりました。		
よしだ　ゆきこ **吉田　弓希子**	砺波市立出町中学校　3年 **悔しさをバネに**	発表順	
概要	「新型コロナウィルス感染症」は、私たち合唱部の活動にも影響を与えました。学校外でお客さんに私たちの合唱を聴いていただく機会がなくなり、「中止」という言葉を聞くたびに、悔しい思いをしました。3年生になっての久しぶりのコンサートでは今度は立ち位置を間違えてしまい、また、悔しさを味わいました。でも、今は、悔しさをバネにして、お客さんに私たちの合唱を聴いていただける喜びを大切に、部活動に取り組んでいます。		